令和８年度　第２回相生小学校運営協議会　会議録（要点記録）　※敬称省略

１　開 催 日 時　　令和８年７月３０日（木）　１３時３０分から１５時５８分
２　開 催 場 所　　相生小学校　多目的室
３　出 席 委 員　　大谷一雄、水谷加寿代、森田賢児、中川有香(学校支援コーディネーター)、
　　松本　薫(学校支援コーディネーター)、川合裕美、澤柳和也
４　欠 席 委 員　　廣野篤男、原　隆之
５　オブザーバー　神谷　匠（東部協働センター）
６　学校関係　　小林延和（校長）　　岡本綾子（教頭）　　前田武稔（主幹教諭)、
　　伊藤龍彦（ＣＳディレクター）
　　相生小教職員２２名　　※熟議（１）のみ参加
７　傍聴者　　なし
８　会議録作成者　ＣＳディレクター　伊藤龍彦
９　議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、中川委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

１０　協 議 事 項

（１）前期学校評価結果と今後の取り組み
（熟議）「課題を踏まえた改善策の検討」

（２）多様性を認め合える安心感のある学級・学年・学校づくりに必要な支援について
（熟議）「(１)の熟議を受けて協議会として何をすべきか」

１１　会 議 記 録

司会の前田主幹教諭から、委員総数９人のうち７人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）前期学校評価結果と今後の取り組み
（熟議）「課題を踏まえた改善策の検討」

議長の指示により、前田主幹教諭から、別紙資料に基づき、学校評価アンケート概要及び熟議の方法について説明があり、委員と相生小職員とで、課題に対するグループ協議を実施した。Ａ～Ｇまで７つのグループに分かれて行い、各グループからは以下の発言があった。

〇テーマ１　家庭学習をどのように進めていけばよいのか？

Ａグループ

・家庭学習のフィードバックを確実に出来たら子供の意欲が高まる。(昨年度の九九検定ボランティアなど担任以外に見てもらう場も効果的だった。)
・家庭学習の意味、付けたい力などを保護者に伝えていくことが大切である。
・宿題は、基本的な内容の定着を保証できる機会でもあるので大切に考えたい。

Ｂグループ

・タブレットの使い方を指導することが必要。遊びではなく良い方向の習慣付けをする。
・それぞれのよさを生かして、紙媒体とタブレットのバランスをとる必要がある。

Ｃグループ

・子供たちの自己肯定感を高めることが教育の目標。探求心や好奇心を伸ばすことが、個性や自

己肯定感が育成される。

・家庭学習の周知をしたが、家庭によって取り組みの格差がある。低学年は、家庭でのフォローが必要。高学年は学力差もあり、子供にゆだねている家庭が多くなっている。

・主体的な学習の推進には、子供たちが自身で選択して家庭学習に取り組むことが求められる。教師は子供と向き合って接することが本分であるからこそ、保護者の意識の醸造を目的に、自由度の高い家庭学習のよさ、メリットを伝えていく必要がある。

・学校は「人を育てる」ことにフォーカスしてほしい。教師は誇りをもって、保護者に何か言われたとしても「毅然」として、目の前の子供の指導に当たってほしい。

Ｄグループ

・家庭で宿題を見るとき、過去に自分自身が学校で習った方法と違っていいのか不安である。

・面談や懇談会以外に話し合いの場を作り、情報共有する機会が大事。

・保護者としては子供によって違うから難しい。宿題を出してもらうことが全てではないが、「宿題」であれば、子供に「やらなければいけない」と言いやすい。

〇テーマ２　挨拶

Ａグループ

・よくなってきていると感じる。中学校区で、地域全体で取り組むとよい。元気な挨拶のためには、「早寝・早起き・朝ご飯」など家庭での生活習慣が大切である。

Ｂグループ

・通学路で１対１で触れ合うことによってわかることがある。（1 年間の移り変わり）

・たすきをかけていることによって、挨拶や声掛けがしやすく、子供からもしてくれる。様々なボランティアで関わることで顔を覚えてくれたことで挨拶が増えた。地域の方が積極的に関わってくれていることが大きな成果。

・挨拶の仕方も様々で、自分らしさがあってよい。

Ｅグループ

・学校や地域から見た子供たちの挨拶の実態は様々だが、子供によって挨拶は違ってもいいのではないか。教員は元気な挨拶を求めすぎな部分もあり、焦らないことが大切である。

・学校と地域が連携して、意識向上に努めないといけない。家庭での生活習慣（睡眠時間や朝ご飯など）も影響していると思われる。子供たちへの支援の仕組みづくりが必要。

〇テーマ３　食育

Ｂグループ

・昔と異なり、教員の声掛けの仕方が温かい。１年生は担任やＣＳボランティアの声掛けによって安心感があった。

・コロナ禍以降に変化した部分も多い。先生や栄養教諭からの声掛けが継続して大切である。

Ｆグループ

・近隣の学校と比較して残食が多いと感じる。

・外食の選択肢が多くなり、ジャンクフードで済ませる家庭も多くなっている。給食の方が栄養のバランスはとれているが、子供にとってはジャンクフードの方が魅力的。ただし、給食も今年はおいしいと子供から聞いている。

・残食は主食や果物が多い。果物の食べ方が分からないということもある。保護者向けに給食の

試食の機会を設定したり、情報を発信したりすることが大切ではないか。食事でのコミュニケーションは子供が食に対する興味になる。

Ｇグループ

・残食が多い。無理や食べさせられていた大人世代からすると、学校も家庭もどこまで踏み込めばいいのかが難しい。相生小の給食は美味しい。残すと聞いてもったいないと感じる。
・給食のレシピを給食だよりで発信したり、ブログで給食の具体的な写真を載せたりしている。給食の量感覚がわかるともっとよい。
・家庭によっては食べる機会が少ない、または食べたことがないと思われるものも提供していくことが大切である。
・子供たちへの声掛けが必要だと思う。苦手なものを食べることは、心のトレーニングになることもある。

○テーマ４　主体性・目標・挑戦等

Ｄグループ

・参観会の雰囲気、授業形態など昔と今の教育の違いについて、懇談会を通して理解できた。
・深く関われない保護者は、「キャリア教育」という言葉をあまり理解していない。尚且つ、保護者への浸透が薄い。アンケート項目が抽象的で、保護者によって想像する子供の姿が違う。
・情報としてブログなどで発信していくことで、家庭での話題にもなる。

Ｆグループ

・子供たちがやりたいことは批判しないようにしている。子供たちは親に一番に応援してほしいと思っている。
・子供の挑戦に対してマイナスのことは言わない。挑戦を「見守る」「見届ける」。決して、放置ではない。「まずやってみよう」と声掛けする。そして、やり遂げることで自己肯定感が向上し、自信が付く。家庭でも学校でもプラスのメッセージを増やすとよい。

○テーマ５　子供に向き合う時間の確保

Ａグループ

・小学校は、授業準備や教材研究などが必要で、大変だと思う。もっと少人数のクラスであればいいのでは、と思うが現状難しい。
・雨の日などに室内で遊べる道具、安心して遊べる場所などがあればいい。時間、空間、人に余裕がある環境になるといい。

Ｅグループ

・休憩時間が取れない（４５分確保も困難）。つきっきりで子供につかなければならない。
・働きやすい環境をつくる必要があるが、人出不足の中、働き方改革の仕組みづくりが難しい。
・地域の人はもっと学校を手伝いたい。核家族の多いなか、祖父母の役割を地域の方に担ってもらいたい。

（２）多様性を認め合える安心感のある学級・学年・学校づくりに必要な支援について
（熟議）「（１）の熟議を受けて協議会として何をすべきか」

相生小職員退出後、熟議を再開した。委員より、以下の発言があった。

・昼休みに遊び道具を用意しておくと、室内遊びができるのではないか。学習以外のボランティアを利用して学校を楽しくすることも大切である。（会長）
・学校に遊び道具の持ち込みは禁止ですか？（中川委員）
・現時点では禁止。学習に必要なものは持って来ない約束になっている。（校長）
・全体の発表を聞いて、保護者への情報発信、理解度。学校としてどのように捉えているか？（森田委員）
・本校は関心が高い保護者が多い。理解してくださっている保護者も多い。地域についても。ただ、温度差はある。家庭の理解が重要。家庭学習については、基礎学習か主体的な学習なのか、どちらを進めていくか。選択を家庭にゆだねるのも、一つの方法だと思う。家庭の主体性を高めるきっかけとしてもいい。信頼があるからこそ、学校から投げかけるのもいいのではないか。（校長）
・多様性、主体性をどのように育てていくか。多様性の捉え方、少し履き違えていると感じるときもある。校則、例えば髪を染めるなど。（森田委員）
・髪を染めている子に対しては、声掛けをしている。最終的には保護者の判断になる。学習に支障をきたすものは禁止している。（校長）
・髪を伸ばしている男の子がいた。明るい子なので、それもよいのかなと感じた。（川合委員）
・特徴的な髪をした男の子がいたが、明るくてダンスを得意としていた。見た目だけで判断してはいけないと思った。（水谷委員）
・残食が多い。食べる時間が少ない、好き嫌いが多い。家庭での食育の問題かも、と思った。食べる場所や相手を変えることを考えてみる必要があるのかもと思う。（松本委員）
・相生小での対応は、難しい。最近、相生小での残食の量が減り、改善されてきているので、そこに少し注力していく。（校長）
・嫌いなものは挑戦していくようなことが指導されれば、アンケートの数値がアップしてくるのでは、と思う。（神谷オブザーバー）

熟議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他の報告事項等

司会から次回の令和８年度第３回学校運営協議会は、１２月１６日（水）１３：００～１５：１０に多目的室で開催する旨の報告があった。